

平成21年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「キレイのさと 美郷」環境保全観光推進プロジェクト		
(2) 実施団体名	美郷商工会	(3) 対象地域	吉野川市美郷地区
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	吉野川市

(6)実施した取組の内容	取組①	「キレイのさと 美郷」環境保全型体験プログラムづくり事業	
	実施主体	主担当:美郷商工会・「宝さがし探検隊」・(株)ジェイアール四国アーキテクト	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		(1)自然や環境をテーマにした環境保全型体験プログラムの開発 ① ホタル・川を守る・里山を育てる・石積み保全・梅の育成などを切り口にした環境体験プログラムづくり ② 環境体験ガイドブック「キレイのさと 美郷 環境体験ブック」の作成と配布 (2)旅行会社(JR四国等)と連携したモニター・ツアーの実証実験・商品の造成(5回) ① モニター・ツアーの実施(周知とモニタリングおよび仕組みづくりに結び付ける)	(1)自然や環境をテーマにした環境保全型体験プログラムの開発 ①推進協議会等で協議し、モニターツアーを実施し、環境体験プログラムを開発した。 ② 環境体験ガイドブック「キレイのさと 美郷 環境体験ブック」を2月に作成し、観光客に配布予定 (2)旅行会社(JR四国等)と連携したモニター・ツアーの実証実験・商品の造成(5回) ① モニター・ツアーを川・間伐・石積み・梅の剪定など5回実施 10月15日・16日(児童向け石積み体験)延14名、12月12日・13日(学生向け梅の剪定・川の環境保全体験)4名、12月23日(梅の剪定体験)15名、1月14日(間伐体験)10名、1月16日(川の環境保全体験)7名参加を実施。 取り組みの結果:モニターツアーを実施した結果、環境保全に興味の度合いにより、体験内容の希望が違いがあることが分かり、参加意図別に合わせた環境保全プログラムが必要であり、環境保全プログラム開発と情報発信などの継続的な取り組みが必要であることを認識した。
	取組②	「キレイのさと 美郷」自然学校インストラクター・案内人など「人」の育成事業	
	実施主体	主担当:美郷商工会・「宝さがし探検隊」・(株)ジェイアール四国アーキテクト	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		(1)環境活用型体験プログラムインストラクター・ガイド育成のための研修 ① 専門家(環境・観光・ホスピタリティなどを招へいた研修の実施(5回) ② 地域内での現地研修会の実施(5回・モニターツアーへの参加含む) ③ 先進地の視察(1か所)	(1)環境活用型体験プログラムインストラクター・ガイド育成のための研修 ①インストラクター等育成研修(9月15日)7名参加を実施 ②住民等がモニターツアーをサポートするために参加し、育成研修を実施 ③先進地の視察を実施。 9月23日香川県小豆島「ツアーガイド」の取り組みについて」17名、11月2日高知県津野町「森林セラピーガイド」の育成について」・11月3日愛媛県松野町「ネイチャーガイド」の育成について」6名参加 ④環境保全に関する課題を研究するため、8月6日徳島大学等「高開石積み保全の問題と解決策について」19名、9月16日阪南大学「美郷の自然環境保全について」協議した。 取り組みの結果:先進地視察研修により、ガイド実施方法等について学んだが、ガイドの質等の向上のために、体験プログラム実施を通じて、継続的なガイド育成研修などの取り組みが必要であることを認識した。 環境保全課題研究会実施により、石積みの伝承者の取り組みが必要であることを認識した。また、参加を呼び掛けるためには一般の方に環境保全を訴える情報発信が重要であることが分かった。
	取組③	「キレイのさと 美郷ネットワーク」を構築し、ネットワーク参画者・運営者育成事業	
実施主体	主担当:美郷商工会・「宝さがし探検隊」		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	(1)「車座勉強会」実施によるキレイのさと 美郷ネットワーク」参画者の育成 (毎月1回・7回実施) (2)「ネットワーク」運営者のための勉強会の実施(毎月1回以上・随時)	(1)「車座勉強会」実施によるキレイのさと 美郷ネットワーク」参画者の育成 ①住民や美郷物産館会員向け車座勉強会を実施(9月8日、10月14日、10月28日、11月17日、12月3日、12月22日、1月29日、2月)延210名参加(見込み) (2)「ネットワーク」運営者のための勉強会の実施(毎月1回以上・随時) ①宿泊施設・物産販売施設等の経営者・スタッフ等向けの勉強会を実施(11月7日、1月18日、2月2回予定)延20名参加(見込み) 取り組みの結果:住民やキーパーソン(参画者)を対象に地域活性化の意識啓発を実施し、ネットワーク構築の整備が整いつつあるが、今後もネットワークを広げる取り組みが必要であることを認識した。	

(7)実施体制	平成21年度の取組実施における体制・役割分担		当初計画からの変更点	
	<p>実施体制は、美郷商工会がプロジェクトリーダーとなり、『キレイのさと 美郷』のメンバーを中心に協議会を立ち上げる。協議会のもとで、①～③の事業を検討していく。</p> <p>また、実施体制の中に、地域の商品づくりや観光の取り組みを熟知する専門家を加える。</p> <p>【主な構成メンバー】</p> <p>①美郷商工会 ②吉野川市 ③『キレイのさと 美郷』メンバー ④「美郷宝さがし探検隊」のメンバー ⑤美郷物産館「みさと屋」 ⑥宿泊事業者（農家民宿「木の夢ととり」「きのこの里」、旅館「清月」、美郷温泉など） ⑦輸送事業者（美郷観光・美郷タクシー） ⑧株式会社ジェイアール四国アーキテクツ ⑨四国旅客鉄道 など</p>		<p>取り組み：美郷・地方の元気推進協議会を設立し、事業内容について検討した。8月19日、12月21日開催。</p> <p>構成メンバーは、</p> <p>①美郷商工会 ②吉野川市 ③老人会・婦人会 ④「美郷宝さがし探検隊」のメンバー ⑤徳島大学 ⑥他町の地域づくりリーダー ⑦徳島県観光協会 ⑧四国旅客鉄道</p>	
(8)取組により得られた成果	○成果1→	「高開の石積み」やホテルなど美郷の観光資源は、自然を保全しながら活用する「環境保全型」のものが多く。本年度は、美郷の自然（山・川・里）を活かした、新たな環境保全型体験プログラムを開発する。		
		H20	H21(当初予定していた目標)	
		環境保全型体験プログラムの開発 5プログラム 環境保全型体験プログラム商品化 0件	環境保全型体験プログラムの開発 10プログラム 環境保全型体験プログラム商品化 5件	
		H21(実際に得られた成果)		
		観光客が昨年比15%増加する予想[美郷物産館の利用者(平成20年度20500人・21年度約24000人予想)]である。ファミリー向け川体験、竹細工、門松づくり、児童向け石積み体験、梅の剪定、川トレッキング、間伐体験などの新しい体験プログラムの開発ができたが、継続していくためには、商品化に向けて、価格・内容の検討が必要。		
	○成果2→	「高開の石積み」やホテルなど美郷の観光資源は、自然を保全しながら活用する「環境活用型」のものが多く。地域で活動が続いている「宝さがし探検隊」のメンバーを中心に、新たに地域内の農林業関係者、地域外の大学生など「他力」の参画を図り、「キレイのさと 美郷」自然学校インストラクターや案内人、保全に関わる人材など、「人」の育成を図る。		
		H20	H21(当初予定していた目標)	
		「キレイのさと 美郷」自然学校インストラクターや案内人登録者0人	「キレイのさと 美郷」自然学校インストラクターや案内人登録者 20人	
		H21(実際に得られた成果)		
		モニターツアー実施にともない農林関係者などの新たな参画者との協力ネットワークが広がってきたが、組織化までには至っていない。インストラクター等登録者(見込み)20人。引き続き、自然体験など実施に際し、インストラクター等協力者の登録に組み込みが必要。		
○成果3→	一元的なネットワークを構築し、自ら、体験観光の企画・受け入れ・情報発信ができる仕組み「キレイのさと 美郷ネットワーク」を構築、運営者の育成をする。			
	H20	H21(当初予定していた目標)		
	ネットワークの運営者・参画者 0人	ネットワーク運営者 2人・ネットワーク参加者 40人		
	H21(実際に得られた成果)			
	JR四国とJALツアーズから体験観光の企画について協議するなど、一元的な受け入れの仕組みができつつある。美郷エコツーリズム協議会(仮称)の運営予定者2名が中心となって、ネットワーク参画者(見込み)20人とともに、平成22年度の運営に取り組む予定。			
○その他の成果→				
	H20	H21(実際に得られた成果)		

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>車座勉強会の実施の際に、全戸に参加呼びかけのチラシを配布するなどを行ったが、参加者が一部の人間に限られ、環境保全や地域活性化についての意識啓発が、十分ではない。継続的に体験観光を実施する中で、インストラクターなどの協力体制などを構築し、ネットワーク参加者など担い手を増やす取り組みを継続しなければならない。観光推進の全体構想を構築することはできたが、継続的な組織運営での検討が必要である。</p>	
<p>(10)平成22年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成22年度以降の展開</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成22年度以降の活動の見込み</p>
	<p>○「キレイのさと 美郷ネットワーク」の組織の立ち上げ</p>	<p>平成22年度に宿泊事業所等を中心に、美郷エコツーリズム協議会(仮称)を立ち上げ、美郷地域の体験観光を担っていく。2年間、事務局は本会が担当する。</p>
	<p>○「キレイのさと 美郷ネットワーク」を中心とした美郷の観光推進体制の強化 ○本格的な「環境保全型観光」の実施と受け入れ</p>	<p>平成22年度以降は、美郷エコツーリズム協議会(仮称)が中心となって、生活文化の体験プログラムや「環境保全型観光」などの企画づくり(商品づくり)に取り組み、月ごとの体験観光を実施する。 体験参加者や体験に興味を持っている方を募集し、ホームページやメールマガジンによる情報発信機能の強化を行う。 体験プログラム実施の中で、「人」のネットワークを活かし、地域内外の連携で実施できる仕組みも整えていく。</p>